

(別添1)

令和6年度老人保健健康増進等事業

地域包括ケアシステムにおける分野横断的連携のあり方に関する調査研究事業

一般社団法人 北海道総合研究調査会

1. 調査研究の目的

本調査研究では、今後、医療・介護連携を中核とする地域包括ケアシステムが、地域の限られた人材・資源を活用し、他分野・他制度とスムーズに接続できるネットワークと仕組みをつくるための実践可能な方法論を検討することを目的として、分野横断的連携に着目し、調査を行った。

サービス利用者を生活者として捉えるならば、支援の対象は高齢者本人のみならず、その家族・同居者を含めた世帯状況をも踏まえる必要がある。その中に、障害者の福祉サービスにおける65歳を基点とする制度間の接続の問題（介護保険へスムーズな移行のためには、移行前及び移行後の1年程の期間において、仕組みとしての両制度間の人的・組織的連携が不可欠）も包含される。また、住まいの問題と住み慣れた住居で介護サービスを利用する場面で制度間の接続が問題となる。本調査研究では、特に、高齢福祉分野と障害福祉分野の分野横断的な連携に焦点を当て調査を実施したところである。

2. 調査報告書の概要

調査報告書は第1章から第6章で構成している。第1章「調査研究の概要」では、調査研究の目的、調査内容、調査の実施フローを整理した。

第2章「分野横断的な連携が必要となる背景整理」では、既存の統計データをもとに、今後、85歳以上高齢者の増加と現役世代の減少、単独高齢世帯の増加、障害者の高齢化などが見込まれる根拠を整理した。また、国の動向として、地域共生社会の実現を目指した施策や高齢福祉分野と障害福祉分野の効率的な連携を図るための施策等を整理し、それらを踏まえて、分野横断的な支援体制の構築による地域包括ケアシステムの深化と推進が必要となる背景を整理した。

第3章「分野横断的な支援体制構築における先行取組事例」では、分野横断的なニーズに対応する地域包括ケアシステムの体制を構築、または着手している取組事例調査として、島根県出雲市、愛知県岡崎市、石川県加賀市の自治体および関係機関を対象に実施したヒアリング調査結果を整理した。

第4章「分野横断的な連携状況に関するアンケート調査」では、道内の地域包括支援センター（279か所）と基幹相談支援センター（44か所）を対象に実施したアンケート調査結果をもとに、道内における他分野（制度）にまたがるケースへの対応状況や高齢福祉分野と障害福祉分野の連携状況、連携課題などを整理した。

第5章「意見交換会の開催」では、高齢福祉分野と障害福祉分野の連携に焦点をあて、分野横断的な支援体制を構築している先行地域の取組事例を学ぶとともに、異なる地域・分野の参加者同士の交流を通して、それぞれの地域における高齢・障害連携の新たな可能性を探ることを目的とした意見交換会の開催結果を整理した。

これらを踏まえて、第6章「とりまとめ」では、分野横断的の目的、良好なネットワークの構築のための要件、分野横断的連携が一層重要となる局面を整理した上で、本調査研究で収集した事例をもとに、「分野横断的な連携」の推進ためのプロセスを整理した。また、今後、研修等で活用可能な補助教材（報告書資料編）を作成した。